

卒前教育から生涯教育に至るシームレスな総合診療医の養成・確保に関する研究

研究分担者 高村昭輝

富山大学 学術研究部医学系 医学教育学講座 教授

要旨

本研究は、今年度は日本において期待される総合診療医のコンピテンシーについて検証し、卒前から初期臨床研修、専門研修、そして、生涯教育にシームレスに活用できる教育コンテンツを分類するための教育項目(シラバス)の作成を目的とした。前前年度には総合診療医のコンピテンシーの検証を行い、前年度にはそのコンピテンシーに合わせてレベル(修得段階)としてのマイルストーンを作成した。前年度は作成した総合診療医のコンピテンシーとマイルストーンについて有識者として研究協力者を招聘し、これらの検証と洗練を主に行い、最終版として提示した。

今年度の研究課題では作成した「日本版総合診療医のコンピテンシー」と「日本版総合診療医のマイルストーン」を実際に現場での研修、教育に実装するためにより具体的な下位項目としての業務として総合診療医が求められる能力を策定し、そこに様々な組織の要点をまとめた教育コンテンツを紐づけられるような教育項目(シラバス)を作成した。この教育項目の作成により、総合診療医を育成している各組織が現在実施している、もしくは今後作成される教育研究コンテンツを紐つけて整理することで達成すべきコンピテンシーがもれなく研修可能となる。また、組織を超えて活用することで、組織によっては弱い領域については他の組織の教育コンテンツを借用、もしくは共同利用することによって現在、組織間で異なっている研修目標を統一するだけでなく、組織が異なっても一定レベル以上の資質能力を有する総合診療医を育成することが可能になると予測される。以上より、今後、教育コンテンツを整理するための教育項目のフォーマットを今年度の研究で作成した。

A. 研究目的

日本では、新専門医制度で総合診療専門医の養成が整備されているが、その他にも総合診療に関係する様々な研修があり、総合診療医の育成は、関わっている組織が非常に多く、また、それぞれに目標方略を立てているために総合診療医の育成が標準化されているとは言い難い。そのため、初年度は目標としてのコンピテンシーを作成し、次年度はそのレベルとしてのマイルストーンを作成した。今年度は目標としてのコンピテンシー、評価としてのマイルストーンが完成したことから、方略としての教育コンテンツを実装するための仕組みづくりが必要である。

特に総合診療医育成に関わる様々な組織がそれぞれの得意な領域と不得意な領域があると思われる。将来的にはそれらを共同利用することを可能にするための教育コンテンツプラットフォームの作成を意図し、また、時代のニーズを踏まえ、今後、様々な組織がWebコンテンツを含む教育コンテンツを作成していくことを予測し、コンテンツを分類し、実装し、共同利用するための教育項目(シラバス)作成を行うことを目的とした。

■ コンピテンシーの下位項目としての教育コンテンツの決定

総合診療の各コンピテンシー領域の教育コンテンツを実装するためにたまた漠然としているコンピテンシーを下位項目とその概要を規定することにより教育コンテンツを作成しやすくすることが可能となる。前年度に引き続き、総合診療領域に詳しい有識者に協力をいただき、教育項目名、概要、さらに下位の細項目を策定する研究を行った。また、卒前医学教育からのシームレスな教育実装を実現するために医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の項目番号も同時に付記するようにした。

B. 研究方法

本研究テーマについて、令和5年度は目標、評価に引き続き、教育方略に活用できるシラバス作成を実施した。前年度までに作成したコンピテンシーの内容を吟味し、そのままでは抽象的であり、専門家以外が教育コンテンツに落とし込むのは非常に難しかったため、各コンピテンシーを分かりやすく分解し教育項目として策定した。さらにはその教育項目を分かりやすいキーワードレベルにまで細項目として策定することにより、現場の教育者がどのようなコンテンツを現場で学ばせればよいのかを見えやすくするように工夫を行った。これにより、学会レベル、病院レベル、現場レベルのいずれの規模においても教育コンテンツを制作し、細項目に紐づけることで必要不可欠な細項目のうち、どこが充足していて、どこが不足しているのかがわかるようなシラバスとして活用できるフォーマットで作成を行った。

1) 国内他分野の教育コンテンツ作成の現状調査

国内においてこのようなシラバスを作成して教育コンテンツを提供している例として文部科学省が行っている「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラ

ン」（がんプロ）のe-learningコンテンツの構成に着目した。全国の様々な養成拠点で同じ教育項目に沿って教育コンテンツを提供し登録していくシステムは今回の様々な総合診療医を育てている組織が統一したプラットフォームで教育コンテンツを共有していく上で参考になる方法であると思われた。

2) コンピテンシーを教育項目に落とし込む

医療者教育理論においてコンピテンシー基盤型教育は国際的にも標準的になっている。しかし、国内外において問題になっているのはややあいまいな人材像表記になっているコンピテンシーを現場でどのような実践能力が必要なのか…という現場でのニーズとかけ離れていることである。今回の総合診療医のコンピテンシーの各領域の表記も同様の傾向が見られるため、これらを教育コンテンツに落とし込むためにはコンピテンシーを強く意識しながらもより具体的な現場で必要とされる能力に書き換える必要があったため、今回、総合診療の領域に詳しい有識者とともに議論を重ね、コンピテンシーの意味を損なわずに現場で用いることが可能な教育項目を作成し、さらにより具体的な教育コンテンツを紐づけられるように細項目としてChapterという項を作成した。Webコンテンツ化した場合に備えて検索などがしやすいようにそれらには概要も付記するようにした。

3) 卒前から、初期臨床研修、専門研修、生涯教育におけるシームレスな教育コンテンツ整理

上記の1) 2) の構成していく上で卒前の教育からシームレスに行っていく必要性を考え、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の項目番号も付記することで卒前から使用していくことが今後、できるように工夫を行った。この研究においては前年度から引き続き、研究協力者：阿波谷敏英（高知大学医学部家庭医療学講

座教授)、鋪野紀好(千葉大学地域医療教育学特任准教授)、堀内明由美(筑波大学地域医療教育学講師)を迎え、日本プライマリ・ケア連合学会のプライマリ・ケア教育委員会の協力も得て行った。

C. 研究結果

1) 国内他分野の教育コンテンツ作成の現状調査

前述のように「がんプロ」の E-Learning シラバスを参考にし、同様のフォーマットで今回は作成を試みた。

2) コンピテンシーを教育項目に落とし込む

前年度の研究により、7つのコンピテンシーとその下位項目として22のサブコンピテンシーを策定している。そのままでは教育コンテンツとしてはわかりにくいいため1. 包括的統合アプローチには6の教育項目、2. 一般的な健康問題に対する診療能力には33の教育項目、3. 患者中心の医療・ケアには5の教育項目、4. 連携重視のマネジメント5の教育項目、5. 地域包括ケアを含む地域志向のアプローチには10の教育項目、6. 交易に資する職業規範には5の教育項目、7. 多様な診療の場に対応する能力には6の教育項目を設定するに至った。さらにその下位項目により現場での具体的な実践能力を意識できるように合わせて約400の細項目を設定し、現場で作成された教育コンテンツが教育に詳しい人でなくとも分類しやすいようにした。こうすることで自らの施設で足りている教育コンテンツと足りていないコンテンツを一目でわかるようにできると考えている。将来的には多施設共同で教育コンテンツをアップロードし、使用できるようにすれば自らの施設で足りていない分野は多施設の教育コンテンツを利用できるような状況も可能であると考えている。

3) 卒前から初期臨床研修、専門研修、生涯教育に

おけるシームレスな教育コンテンツ整理

総合診療の教育については医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年改訂版)においてこれまで以上に重視されている。今回の教育コンテンツにおいても卒前の医学教育にも利用ができるように前述の細項目に医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年改訂版)の項目番号も付記するようにした。

D. 考察

1) 国内他分野の教育コンテンツ作成の現状調査

「がんプロ」についてはかなり成熟しており、全国でも活用されていることが理解できた。今回の総合診療医版 Web 教育コンテンツシラバスが今後活用されていくかどうかは日本国内における総合診療医のニーズに大きく影響を受けると考えられる。しかし、これらが全国で共同運用されるような状況になると日本の総合診療医の標準化がはかれる可能性が非常に高い。

2) コンピテンシーを教育項目に落とし込む

教育項目ならびにその細項目については現場の医学教育に長けていない方でもわかりやすいものになったと思われる。これに合わせて教育コンテンツをあげていくことができれば非常に充実したものになるであろう。あまりにも細項目を細かくしすぎると項目数が多くなり、運用が非常に難しくなる。今後はこの項目数が妥当であるのかどうかを運用しながら検討していく必要がある。ニーズがない項目や項目によっては教育コンテンツを作成しにくいものも出てくる可能性がある。

3) 卒前から初期臨床研修、専門研修、生涯教育に

おけるシームレスな教育コンテンツ整理
医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)の項目番号を付記することにより、

卒前の教育コンテンツも上げられるようになったと考えている。このことにより、卒前からのシームレスな教育はプラットフォームとして実施可能な目途がついた。一方で、現状の卒前教育においては、まだまだ総合診療医の育成ということが全国の大学では十分に可能な状況ではないと考えられる。その場合にも他大学…総合診療教育が充実している大学の教育コンテンツを共有することで総合診療教育が十分でない大学でもある程度の教育レベルに到達することができるのではないかと。

E. 結論

今後の発展に期待ができる総合診療領域の教育方略を実装するための教育項目（シラバス）の作成を行った。これらが各組織、各レベルで認知されて用いられる＝実装される状況が作られれば日本の総合診療医の標準化が期待できる。今回の教育項目と教育コンテンツ整理のフォーマットを用いれば各育成組織の得意領域不得意領域を明らかにすることも可能になり、将来的に教育コンテンツの共同利用もできるようになると総合診療医育成の研修の質の標準化が可能になる。少子高齢社会において、地域によっては総合診療医もしくは総合的に患者を診る医師のニーズはますます増えていくと思われる。その中で「日本の総合診療医」とはどのようなものか、その教育はどのようにやるのか、そして、どう評価するのか…をこの研究結果を利用して発信発展できるとこの研究成果が上がると思われる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

参考文献

1. The Family Medicine Milestone Project. A Joint Initiative of The Accreditation Council for Graduate Medical Education and The American Board of Family Medicine.
<https://www.acgme.org/globalassets/PDFs/Milestones/FamilyMedicineMilestones.pdf>
2. CanMEDS-Family Medicine 2017. A competency framework for family physicians across the continuum.
<https://www.cfpc.ca/CFPC/media/Resources/Medical-Education/CanMEDS-Family-Medicine-2017-ENG.pdf>
3. Royal College of General Practitioners. The Core Curriculum.
<https://www.rcgp.org.uk/-/media/Files/GP-training-and-exams/Curriculum-2019/The-Core-Curriculum---final-version---280819.ashx?mw=200&ts=20220517T0127131741&hash=20CFF63748593ACDDBE5292F5E1A4C64F0EADD36>
4. Royal Australian College of General Practitioners. RACGP curriculum and syllabus for Australian general practice. Core Competency framework.
<https://www.racgp.org.au/curriculum-and-syllabus/a-guide-to-using-the-curriculum-and-syllabus>

5. 日本プライマリ・ケア連合学会 新・家庭医療専門医制度.
<https://www.shin-kateiiryu.primary-care.or.jp/competency>
6. 日本病院総合診療医学会 専門医制度.
<http://hgm-japan.com/system/process04/>
7. 日本在宅医療連合学会 専門医制度.
<https://www.jahcm.org/system.html>
8. 日本医師会 生涯教育カリキュラム.
https://med.or.jp/cme/about/jissi/curriculum_2016_202204.pdf
9. 全日本病院協会 総合医育成プログラム.
<https://www.ajha.or.jp/hms/sougoui/index.html>
10. 日本地域医療学会.
<https://www.jach.or.jp/>